

令和7年度 第4回学校運営協議会



【1月 1年生 生活科（昔の遊び）】



【2月 学校掲示物作成】



【2月 参観会】

令和8年2月10日（火）
14：00～ 多目的室①
浜松市立与進小学校



《令和7年度 浜松市立与進小学校 学校運営協議会参加者》

○学校運営協議会委員

長上地区自治会連合会前副会長	石津 惠也 様	
元小学校校長	鷹森 光代 様	(学校支援コーディネーター)
現PTA副会長	星 貴之 様	(夢育やらまいか代表)
元PTA役員	幸田 記代子 様	(学校支援コーディネーター)
原島町自治会長	仲川 尚志 様	
スポーツ施設利用委員会会長	鈴木 清久 様	
前市議会議員	鈴木 育男 様	
現PTA会長	足土 智彦 様	
現PTA役員	山本 希美 様	
民生児童委員	中山 利彦 様	

○オブザーバー

民生児童委員	竹村 祥子 様	(学校支援コーディネーター)
長上協働センター 所長	石井 智也 様	
長上協働センター 主事	村田 弘貴 様	

○学校職員

与進小学校 校長	太田 賀子
// 教頭	影山 重広
// 主幹教諭 (CS担当)	内田 智美
// 生徒指導主任	池田 典央
// CSディレクター	堀内 千佳代

○傍聴人

《本日の日程》令和8年2月10日(火)

※ 開催要件確認(過半数の出席)

【司会：教頭】 14:00～14:10

1 会長挨拶【石津】

2 校長挨拶【校長】

【司会：議長(鷹森)】 14:10～15:15

3 前回会議録の確認【主幹教諭】

4 熟議

① 学校関係者評価 来年度の改善策【主幹教諭】

いじめ防止への取り組み状況【生徒指導主任】

② 学校運営協議会の自己評価【各委員】

③ 令和8年度学校運営の基本方針について【校長】

5 報告

① 学校支援活動について(現在の取り組みについての進捗状況や報告)

【学校支援コーディネーター】

6 その他

① 夢育やらまいかCS加算分の報告【教頭】

【司会：教頭】 15:20～15:30

7 お礼の言葉【校長】

8 連絡事項【教頭】

★来年度の運営協議会の日程(予定)

第1回 5月14日(木) 13:30～15:30

第2回 7月29日(水) 13:30～15:30

第3回 2月19日(金) 13:30～15:30

令和7年度 第3回 与進小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年12月11日（木） 13時30分から15時45分まで
- 2 開催場所 与進小学校 多目的室①
- 3 出席委員 石津 恵也、鈴木 清久、鷹森 光代、幸田 記代子、星 貴之、鈴木 育男、中山 利彦、仲川 尚志
- 4 欠席委員 足土 智彦、山本 希美
- 5 オブザーバー 石井 智也（長上協働センター所長）
- 6 学校支援コーディネーター 竹村 祥子
- 7 学 校 太田 賀子（校長）、影山 重広（教頭）、内田 智美（主幹教諭・CS担当）、大森 一樹（研修主任）、堀内 千佳代（CSディレクター）
- 8 教育委員会 鈴木 陽子（学校・地域連携課）
- 9 傍聴者 なし
- 10 会議録作成者 CSディレクター 堀内 千佳代
- 11 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、第1回会議で承認された鷹森委員が務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

12 協議事項

（1）学校の教育活動について

- ① 2学期学校評価の報告
- ② 全国学力調査の報告
- ③ 与進小の現状から、学校の強み、弱みを分析する。そこから、どんな子供に育てたいか、そのためにはどのような方策があるかを協議する。

13 会議記録

司会の影山教頭から、委員総数10人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）学校の教育活動について

① 2学期学校評価の報告

議長の指示により、内田主幹から別紙資料『令和7年度与進小学校「学校評価後期アンケート」結果一覧』の説明があり、委員より以下の発言があった。

- ・17・18番の「先生も友達も自分を認めてくれて励ましてくれる」という項目の数値が高いのに、12番の「自分の思いや考えを相手や仲間きちんと伝えることができた」という項目の数値が低い。どうして矛盾が起こるのか。（鷹森委員）

⇒自分の意見を持っていても自信がもてないという面と、言えてはいるが、「きちんと」という言葉に、バイヤスがかかっているのかもしれない。（校長）

⇒項目の書き方を改善すれば、数値が上がる可能性がある。（鷹森委員）

⇒子供に寄り添ったやさしい言葉で問いかけしたらどうか。(中山委員)

② 全国学力調査の結果について

議長の指示により、大森研修主任より別紙資料「あかまつ」に基づき、全国学力調査の結果についての説明がされ、委員より以下の発言があった。

- ・平均以下が続いているが、問題点は何か。それに対して何か対策を取っていないのか(石津会長)

⇒今回の結果を分析し、具体的に検討した物を保護者には各学年だよりで伝えている。また基礎・基本の「話を聞く」という事を徹底させることで、子供たちの学習の基本がずいぶん身についてきた。また教師の資質能力を上げるために研修にも力を入れている。(校長)

- ・「学校の授業以外に1時間以上勉強している」という項目が半数以下で、例年同じ様な結果が続いている。定着させるためには復習が大事である。こちらも問題の一つではないか。(竹村学校支援コーディネーター)

⇒宿題は出されているのか。(鷹森委員)

⇒宿題は各クラス毎日出されているが、実際に家で行っているかは家庭によって差がある。(大森研修主任)

⇒タブレットの持ち帰りを増やしたらどうか。(幸田委員)

⇒家庭でタブレットを活用することは有用な事だと認識しているが、放課後児童会にはWi-Fiが繋がっていないという問題点もある。前向きに検討したい。(校長)

- ・与進小学校として、何を目標にするかを明確にするべきではないか。(星委員)

⇒次のSWOT分析で踏み込んで協議したらどうか。(鷹森委員)

③ 与進小の現状から、学校の強み、弱みを分析する。そこから、どんな子供に育てたいか、そのためにはどのような方策があるかを協議する。

議長の指示により、内田主幹より別紙資料「SWOT分析について」の説明がされ、2つのグループに分かれ協議が行われ、協議終了後に各グループより協議内容の発表がされた。

【Aグループ】

<委員> 石津会長、鈴木清久副会長、鈴木育男委員、仲川委員、竹村学校支援コーディネーター

<学校> 太田校長、内田主幹

<学校の強み>

- ・あいさつができ、まじめでがんばる子が多い。
- ・仲良しで、聞く態度が良い。

<外部環境の強み>

- ・人の財産として、ボランティアに積極的に参加してくれる。自治会が協力的。地域の

方が温かく声をかけてくれる。

- ・物の財産として、会社、店、神社、寺が多くある。またスポーツ活動を行う環境なども整っている。

＜学校の弱み＞

- ・自己肯定感が低く、発表ができない。
- ・粘り強さに対して消極的、学習に対して継続的にできない。
- ・ルールはわかっているが、規範意識が薄く回りに流されやすい。

＜外部環境の弱み＞

- ・交通量が多い。
- ・保護者が家庭学習に対して消極的である。
- ・愛情不足の子がいる。
- ・基本的なルールを守れない子が町内にもいる。
- ・子供会などのイベントが減っている。

＜方策＞

- ・個別指導を徹底して行い、0や1の子を無くし、グラフの山を右側にもっていきたい。
- ・九九チャレンジ、タブレットチャレンジを今後も継続的にやっていきたい。
- ・長上カルタなどの地域の財産を利用し、地域が好きになるような探求学習をしていきたい。

【Bグループ】

＜委員＞ 鷹森委員、幸田委員、星委員、中山委員、石井オブザーバー

＜学校＞ 影山教頭、大森研修主任

＜学校の強み＞

- ・あいさがしっかりできる。
- ・明るく、素直で、話をよく聞いて行動している。
- ・行事等、目標やゴールに向かって進んで取り組むことができる。

＜外部環境の強み＞

- ・地域の方の協力体制ができていて、ボランティア等、子供たちに関わろうとする人々が多い。
- ・ショッピングセンター等の店舗が揃っていて、働く人々の様子を見ることができる。

＜学校の弱み＞

- ・定着度が低い。表面的な理解でしっかり定着していない。
- ・主体的にどう学ぶかを自分で設定できない。

＜外部環境の弱み＞

- ・宿題の取り組み内容が難しい。
- ・地域で子供を育てる活動が少なくなった。
- ・交通量が激しく登下校が心配である。

＜方策＞

- ・まだまとまっていないのでご指導いただきたい。

発表終了後、議長より発表内容についての意見を求めたところ、委員より以下の発言があった。

- ・学習面に関して保護者がもう少し自分の子供を理解する必要がある。(幸田委員)
- ・目標はどこに主眼を置くかによって方向性が変わってくる。本質的なところに主眼を置くのであれば、自分の考えを相手に伝えるような時間を設けることができれば、有効なのではないか。(星委員)
- ・自分で調べた資料を発表する場を設けたら、経験値が上がると思う。(中山委員)
⇒CS活動で学んだことを発表する場を設けて、参加していただいた方に発表を見ていただいたらどうか。(内田主幹)
⇒成長した姿を見せて褒められることで子供は意識が変わるので、発表の際は、是非声をかけていただきたい。(鷹森委員)
- ・長上カルタを作成する上で、原島の変電所に質問を投げかけたところ、わかりやすい資料をまとめてくれた。今後は企業に対しても働きかけを行ってはどうか。(仲川委員)
- ・イベント等で、子供にスタッフを任せ達成感を味わうことは自信につながる。(鷹森委員)

その他報告事項等

- ・教頭から、次回会議は、令和8年2月10日(火)14時から開催され、授業参観されたい方は13時30分より見学できる旨の報告がされた。



あかまつ

学校教育目標
志をもち 共にやりぬく子

令和8年1月 浜松市立与進小学校 学校だより

後期アンケート特別号

厳しい寒さの中、子供たちは、朝から運動場で遊んだり、縄跳びの練習をしたりして、元気に過ごしています。さて、12月に保護者の皆様に御協力いただいた保護者アンケート結果をもとに、来年度の教育活動をよりよいものにしようとする新年当初より職員で話し合いを行いました。結果について、御報告いたします。

令和7年度 学校評価アンケート振り返り

児童の前期と後期を比較すると、「友達と協力して活動に取り組むことができた」や「友達は自分を認め、励ましてくれる」の項目が向上しました。2学期の行事や日々の授業を通じて、子供たちが「目標をもち、仲間と協力してやり抜く」という成功体験を積み重ねてきたことにより、認め合い、励まし合う温かな集団作りができたと感じます。そのことが、児童にとって学校生活における高い満足感と安心感の高さにつながったと思います。また、学習面において、「授業が楽しい」や「授業の内容がよく分かる」の数値が上がり、学習意欲の向上も見られます。全学年を通して『聴く・話す』の学習習慣が定着した手応えを職員間で共有しています。今後、学力の定着に向けて、教員の研修もさらに深めていきます。

保護者については、昨年度と比較して、「お子さんは、楽しく学校に通っている」「学級には認め励まし合う空気感がある」の項目が向上していることから、安心できる居場所となっていることや認め合う空気感の広がりを御家庭で感じ取ってくださっていることに感謝申し上げます。

課題としては、保護者の「言われる(指示される)前に自分で行動できる」が、全項目の中で最も低い水準にとどまっています。学校で見せる前向きな姿を、家庭や地域でも「自ら考え、行動する姿」として発揮できるよう、子供たちの自信を確かな主体性へと引き上げていく取り組みが必要です。そのためには、児童の自己肯定感の向上が必要です。引き続き、学校生活の様々な場面で、すべての教職員が児童一人一人を大切に、児童が自信をもって活動できる機会(役割や出番)を増やし、温かな声掛けや支援をしていきたいと思えます。

今後も、学校に携わる皆様の思いを大切にしながら、友達と仲良く、楽しく生活できる学級づくり、学校づくりを進めていけるよう、職員一丸となって教育活動にあたってまいります。

～御意見・御感想への回答～

学校活動について

保護者が参観する学校活動(運動会、参観会、音楽会、持久走記録会)について、開催時期、運営方法、内容、連絡方法等、御意見をいただきました。児童の健康安全や保護者の参観しやすさを考えながら、来年度の改善に努めていきたいと思えます。来年度の年間予定については、3月初旬にさくら連絡網にて配信させていただく予定です。

学習面について

学習の理解度に対する心配や、宿題の量や内容についての御意見をいただきました。授業では主体的に学べる指導方法の工夫やタブレット活用を進め、個々の習熟に応じた支援を行います。また、宿題については、家庭学習の目的を明確にしつつ、各学年の発達段階や個々の習熟度、状況に合わせた柔軟な課題提示や支援のあり方を検討していきます。

教職員の対応について

丁寧な個別指導や子供の充実した学校生活への感謝の声を多くいただき、職員にとって大きな励みとなりました。本当にありがとうございます。一方、指導の統一性や児童が安心して過ごせる環境への御指摘をいただきました。校内での指導方針を共通理解し、一貫性のある対応に努めます。そして、『与進ファミリー』として、どの児童の心にも寄り添い、温かく、かつ毅然とした指導ができる体制を整え、安心して登校できる環境づくりを最優先に進めていきます。



令和7年度与進小学校 「学校評価アンケート」結果一覧

※アンケート集計は、(4 そう思う 3 まあそう思う 2 あまりそう思わない 1 そう思わない)の評価を4点満点で平均した数値になっています。:最高4点 最低1点

回答者数 290名
(在籍者数 808名 実家庭数635名)

	児童		保護者	昨年後期		後期	教員		前期		後期	
	前期	後期		前期	後期		前期	後期	前期	後期		
1	楽しく学校に通うことができた。	3.58	3.54	お子さんは、楽しく学校に通っている。	3.19	3.31	子供は、楽しく学校に通っている。	3.34	3.42			
2	目標に向かって行動することができた。	3.39	3.40	お子さんは目標(志)をもって行動できた。	2.84	2.86	子供は夢や目標(志)を持つことができた。	3.21	3.09			
3	友達と協力して活動に取り組むことができた。	3.56	3.58	お子さんは、他人と協力して行動ができています。	3.14	3.20	子供は、友達と協力して活動に取り組むことができた。	3.32	3.44			
4	何事にもねばり強く取り組むことができた。	3.43	3.43	お子さんは、失敗を恐れず、挑戦し続けることができる。	2.69	2.77	子供は、何事にもねばり強く取り組むことができた。	2.95	2.98			
5	自分にはよいところがある。	3.30	3.26	お子さんは、自分のことを大切にしている。	3.19	3.28	子供は、自分のことを大切にしている。	3.26	3.30			
6	あいさつがよくなった。	3.41	3.39	お子さんは、あいさつをよくする。	2.91	2.98	子供は、あいさつがよくできている。	3.11	3.16			
7	ふわふわ言葉を使うことができた。	3.35	3.31				子供はふわふわ言葉を使うことができています。	2.95	2.81			
8	静かに廊下を歩くことができた。	3.26	3.20				子供は静かに廊下を歩くことができています。	2.53	2.51			
9	よいと思うことは、自分で進んで行動できる。	3.36	3.36	お子さんは、言われる(指示される)前に、行動することができます。	2.43	2.50	子供は、自ら考え行動することができます。	2.61	2.72			
10	授業が楽しいと感じている。	3.42	3.43	お子さんは、授業を楽しんでいる。	2.87	2.91	子供は、授業を楽しんでいる。	3.13	3.12			
11	授業の内容がよくわかる。	3.39	3.41	お子さんは、授業がよくわかると感じている。	2.79	2.92	子供は、わかると実感していると感じる。	3.00	3.05			
12	自分の思いや考えを、相手や仲間きちんと言葉で伝えることができた。	3.31	3.28	お子さんは、自分の思いや考えを、相手や仲間きちんと言葉で伝えることができています。	2.76	2.83	子供は、自分の思いや考えを、相手や仲間きちんと言葉で伝えることができています。	2.79	2.81			
13							子供は、温かい聴き方・優しい話し方ができている。	3.03	3.07			
14	自分が決めためあてや約束に沿って家庭学習ができている。	3.35	3.39	お子さんは、自分が決めためあてや約束に沿って家庭学習ができている。	2.76	2.72	子供は自分が決めためあてや学習の約束に沿って家庭学習ができている。	2.87	2.95			
15	自分や友達の安全に気を付けて生活できた。	3.52	3.54	お子さんは、自分や友達の安全に気を付けて生活できている。	3.20	3.14	子供は、自分や友達の安全に気を付けて生活できている。	2.89	2.95			
16	学校は、自分を大切にしてくれると感じる。	3.60	3.56	学校は、お子さんを大切にしていると感じる。	3.15	3.21	一人一人を大切に、個に応じた支援ができている。	3.29	3.28			
17	先生は、自分を認め、励ましてくれる。	3.63	3.59	学校は、お子さんを「認める」「励ます」「ほめる」てくれると感じる。	3.07	3.16	「認める」「励ます」「ほめる」ことを積極的にした。	3.47	3.47			
18	友達は、自分を認め、励ましてくれる。	3.58	3.61				学級には認め励まし合う空気感がある。	3.32	3.40			
19	学校・学級は、失敗しても大丈夫な雰囲気がある。	3.46	3.46	学校・学級は、仲間の失敗を温かく受け止められる雰囲気になっている。	2.98	3.04	失敗を温かく受け止められる学級の雰囲気になっている。	3.29	3.30			
20	先生に、相談しやすい。	3.57	3.50	お子さんのことについて学校は、相談しやすい。	2.97	3.02	保護者や子供が相談しやすい環境を作っている。	3.34	3.26			
21	学校は、安心できる場所になっている。	3.51	3.52	学校は、いじめを許さない安心できる場所になっている。	2.92	2.94	いじめのない学校づくりへの取り組みにより、学校は子供が安心できる場所になっている。	3.26	3.30			
22				学校は、情報を積極的に発信している。	3.05	2.97	積極的に情報発信を行うことができた。	2.95	3.09			
23				学校は、保護者や地域の願いや考えを受け止めながら教育活動にあたっている。	3.00	2.97	保護者や地域の願いや考えを意識して、教育活動にあたっている。	3.32	3.28			
24	学年や学級が目指している目標(一員として自分がやるべきこと)を知っている。	3.55	3.59	学年や学級の目指す姿が家庭にも伝わっている。	2.84	2.83	学年・学級目標を子供や保護者と共有している。	3.24	3.12			

令和7年度のいじめ報告

～いじめ認知数～

前 期	R6継続	4月	5月	6月	7月	9月
いじめ認知数	17	2	5	34	2	2

後 期	10月	11月	12月	1月	2月	合計
いじめ認知数	3	2	7	0	—	74

～いじめの様態～

冷やかし 悪口	仲間外れ 無視	軽い暴力	重い暴力	金品隠し 壊し	危険 強要	PC 誹謗
23	3	26	1	1	0	1

～解消状況～

後 期	解 消	3か月以上	3か月未満	その他	事実なし
いじめ認知数	46	19	9	0	0

「与進小学校いじめ防止基本方針」について

令和7年4月「浜松市いじめの防止等のための基本的な方針」が改定されました。それに伴い、「与進小いじめ防止基本方針」も改定し、1年間方針に沿っていじめ防止、いじめ対応をしてきました。改定後も方針が教育課程を実施していく上で、無理なく機能しているのかを精査しながら教育活動を行い、教職員で振り返りと確認をしましたが、与進小の実態に即したものであると捉え、大幅な加除修正をすることなく、来年度も現行の方針を継続施行していく予定です。この方針は、学校だけでなく、保護者・地域の方と共に同一歩調で進めていくために、与進小ホームページにも掲載しています。

今後も学校運営協議会には、浜松市や与進小のいじめ対策の方針を理解していただき、与進小のいじめ問題の状況を共有することで、社会総がかりで子供を見守り、健やかな成長を促すための連携・協働体制を整えていただきたいと思います。

(様式2)

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

委員名 ()

<本年度の目標>

・学校運営協議会の設置目的や協議すべき事項について確認をし、学校運営の基本方針や目指す子供の姿、学校の課題などから、その実現や解決に向けた取組についての話し合いを行う。
・学校が必要とする支援を確認し、学校・家庭・地域のそれぞれが実行すべき内容、役割分担が明確となるような熟議を行う。地域とのつながりを増やせるような支援内容を熟議し、学校と地域との関わりを増やしていく。そして、地域の教育力を向上させ、地域で子供を育てていく。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ ア よくできた1 イ できた4 ウ あまりできなかった3 エ できなかった1
(理由)
・校長先生から示された学校運営について理解し、どのような協力の仕方ができるかを話し合うことができたと思う。また基本方針の分からないことは、しっかり聞くことができた。
・教育目標・学校運営方針について校長より説明あり、委員から特段の質問はなく、内容について共有できたと思います。しかし、地域と一緒に子供を育てる教育目標として、どんな姿を目指すのかを十分に共有するように熟議したい。
・教育目標として「志をもち、共にやりぬく子」とあるが、子供たちへの育成に対しアプローチ・姿勢について、どんなかたちを目指して行くのか共有するように学んでいきたい。
・欠席した為、評価することができません。申し訳ございません。
・校長をはじめ担当教諭による学校の方針についての詳細な説明・解説により地域の代表として学校の運営現状を知ることができたが、ともすると協議会がその報告の場となってしまうこともあるので、来年度はより深い熟議の場としたい。
・学校教育目標の根拠と具体策について共有でき理解することができた。委員から、新たな活動や、活動の改善への提案があると更にい。
・学校運営の基本方針や教育目標について、協議会としてどのように関わっていくのか熟議することができた。特に、地域とのつながりを増やす支援内容について熟議することができた。
・確認をした程度。
・ほぼ参加できなかったため、あまりできませんでした。
・できなかった。
・新たに、自己肯定感を上げる為のSWOT分析を通して、様々な視点で課題をとらえ、改善に向けられる情報を得られた。委員としての意見や体験を示す事もできたと思う。
・(欠席)

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ ア よくできた1 イ できた6 ウ あまりできなかった4 エ できなかった0
(理由)
・学校運営の基本方針に沿って、どのような支援や地域活動ができるかを、それぞれの方が、話し合いに参加できたと思う。
・学校運営協議会の実質の支援活動としては、学校と学校支援コーディネーターとで決定がされているだけで、教育活動としては授業補助・校外学習の引率などであり、このような活動で、学校が求めている目標としてなのか判断しにくい。
・教育目標・学校運営方針の目標としての説明はありましたが、学校運営協議会に具体的な依頼内容がはっきりしない。
・教育活動の充実につながるような学校支援活動について熟議を進めたとは言えないと思います。
・児童の地域に対する理解を深める活動に、地域の代表として支援することができた。しかしまだ一部の人のみの参加にすぎないため今後はより多くの人に賛同いただけるよう熟議を進め、地域での支援活動を活性化したい。
・学校支援活動については、前回の反省から、実施のねらいに即したものになるよう、年々進化してきている。協議会でさらに、熟議を進め、よい活動を目指すべきである。
・学校が必要としている支援を、どのように地域と連携していくのか熟議することができた。地域の自治会長に協議会のあり方を説明し理解してもらうことができた。
・感想を発言している程度で、必要な支援等については熟議できているとは言い難い。
・欠席が多く、あまりできませんでした。
・できなかった。
・学校学習での地域支援として、何が出来るかを考え、民生委員として、習字の支援は委員にとって、とても有意義な体験になった。与進北小でのミンシ支援や、与中の浴衣着付等、様々な支援が、それぞれの学校での希望に対応できたと思う。
・7月の子供の自己肯定感向上についての協議会は、先生方の参加により大変有意義なものであったし、職責をしっかりと果たされている姿も見てとれた。こうした点は保護者や地域の人にも理解してもらいたい一面であると感じた。協議の結果、結論も明確なものとなった。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ ア 充分に行った3 イ 行った3 ウ あまり行わなかった3 エ 行わなかった2

(理由)

- ・CSだよりを通して、各家庭に知らせることができた。
- ・情報発信は主に「CSだより」であり、実施結果が記事として情報発信されていますが、協議会の内容については、学校支援コーディネーターによる個人的に情報として発信されていますが、全世帯に情報として発信できる体制をつくりたい。
- ・学校運営協議会での協議内容そのものが決定内容として協議結果として発信する情報がない。
- ・CSだよりでの情報発信を行っていることで、少しずつ周知も出来ていると思います。
- ・協議会の結果について自治会や関係者への報告は行ったが、回覧等を利用し地域への発信をすることがあまりできなかった。来年度は何らかの方法で情報発信を行い地域での支援活動を広げていきたい。
- ・例年の便りやホームページでの発信に加え、協働センターの協力を得て、中学校区の協議結果を、地域の皆さんに見ていただく掲示板が設置された。また、連合自治会に発信したあと、校区の自治会長一人ずつに声かけをし、活動への参加を求めたことで、支援活動が地域へと、広がりがつある。
- ・地域の自治会長を通じて、協議会が行っていききたい内容を周知していくことができた。それによって教育活動における学校支援ボランティアの参加が広まった。
- ・学校ホームページへ議事録を載せてあるだけで、協議結果についての情報発信は行われていない。
- ・欠席が多く、できませんでした。
- ・できなかった。
- ・自分の委員としての意見は、過去の経験、体験を良い点を示せたと思う。今後、子供達の環境も様々に変わり、高度化に向かうと思われ、指導により重点を置き、育ててほしいと思います。
- ・CSだよりや学校のホームページで公表発信しており、地域の各家庭にも回覧で届いてはいるが、果たしてこれに目をとめる人がどれほどいるかである。地域の子供たちにまなざしを向けてもらい、自分事として学校に関心を持ってもらう方策の具現化が待たれる。(関係人数を増やす。)

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

- ・学校運営の基本方針を十分理解し、学校が必要とする支援を確認し、学校・家庭・地域のそれぞれが実行すべき役割を明確にし、支援内容を熟議し、学校と地域との関わりを強くし、地域と家庭の教育力を向上させ、3者で子供を育てていく。
- ・小学校の現状より、学校の強み・弱みをSWOT分析した。出てきた内容を基に、学校教育目標に沿った提言・方針を実現や解決に向けた取り組みについて話し合いを行う。
- ・「全国学力・学習状況調査」において、浜松市に比べて本校が平均点が毎回下回っている。分析・改善点を上げていますが、至っていない状況と思われます。学校運営協議会とは直接関係ないとは思いますが、子供たちの皆さんのやる気を無くすことに繋がりますか。
- ・学校が依頼する必要な支援を、学校・地域の役割分担を明確となるような熟議を進めたい。
- ・学校が必要とする支援を確認し、学校・家庭・地域のそれぞれが実行すべき内容、役割分担が明確となるような熟議を行う。
- ・地域の代表として学校運営協議会により深く参加し、その結果を地域へ発信することにより、より多くの人が学校支援活動に参加できるよう努めていきたい。可能ならば地域の事業所などにも活動の輪を広げていきたいと思う。
- ・協議会として、今年度の支援活動をどのように進化させるか、新たにどのような支援をすることが望ましいのかを熟議したい。
- ・より多くの保護者、地域の方の参加を求める方法を検討したい。
- ・徐々に出来つつある地域とのつながりを、単発ではなく継続して広げられるように、これからも協議会で熟議していく。
- ・必要な支援についての熟議を行い、その実現や解決に向けた取組についての話し合いを行う。
- ・子どもたちの成長や安全な生活のために、保護者や地域の立場からできることを考え行っていきたいと思います。
- ・仕事の都合でほとんど参加できませんでした。
- ・学習支援や協力の部分で、今年以上に協力したいと思っています。それぞれ先生方の取組みのサポートを通じて、子供達と同じ行動で話せる機会はとても重要と思うので、よろしく提案してほしいと思います。
- ・学校行事等へのボランティア参加者が増え、地域との絆が強まりつつある。学校との関わりを持つ(持った)人を一人でも増やし、その人たちを核として、地域を今以上にまき込み、結果として情報発信の充実にもつなげる方向の検討。

(様式1)

学校番号 (小)・中 27)

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立 (与進小) 学校運営協議会長

<本年度の目標>

- ・学校運営協議会の設置目的や協議すべき事項について確認をし、学校運営の基本方針や目指す子供の姿、学校の課題などから、その実現や解決に向けた取組についての話し合いを行う。
- ・学校が必要とする支援を確認し、学校・家庭・地域のそれぞれが実行すべき内容、役割分担が明確となるような熟議を行う。地域とのつながりを増やせるような支援内容を熟議し、学校と地域との関わりを増やしていく。そして、地域の教育力を向上させ、地域で子供を育てていく。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ ア よくできた1 イ できた4 ウ あまりできなかった3 エ できなかった1
(理由)

校長より示された学校運営の方針や教育目標について詳細な説明があり、理解を深めることができた。しかし、協議会が学校側からの報告を受ける場に留まってしまう傾向があり、地域でどのような子供を育てるかという具体的なアプローチや姿勢についての共有がまだ不十分である。今後は、学校側の提示に対して委員から新たな活動案や改善策を積極的に提案し、より双方向で深い熟議ができる場へと転換していく必要がある。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ ア よくできた1 イ できた6 ウ あまりできなかった4 エ できなかった0
(理由)

習字やミシンなどの学習支援が有意義に行われたほか、教職員と直接対話した「自己肯定感向上」についての協議では、学校・保護者・地域の立場で支援できることについて議論できた。一方で、学校側からの具体的な依頼内容が必ずしも明確でない場合があり、支援活動への参加者が一部の協力者に固定化されている。今後は、学校が必要とする支援の内容と役割分担をより具体的に整理し、ネットワークのさらなる拡大を図っていく。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ ア 充分に行った3 イ 行った3 ウ あまり行わなかった3 エ 行わなかった2
(理由)

「CSだより」の発行やホームページへの掲載に加え、自治会長への個別協力依頼により、地域への周知とボランティア参加の輪が広がっている。しかし、回覧板や紙面媒体だけでは情報を十分に届けられていないところがあり、協議会の活動内容が地域全体に自分事として浸透しているとは言えない。今後は、地域住民が学校に関心をもつための方策を具体化して、効果的に情報が発信できるようにする必要がある。

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

- ・学校運営の方針を十分に理解し、学校・家庭・地域がそれぞれ実行すべき役割分担を明確にした上で、課題解決に向けた実効性のある熟議を行う。目標の明確化
- ・子供たちの主体性を引き出し、教育目標を達成するための具体的な支援策や環境づくりを協議する。長上カルタの活用、発表の場の設定、学習意欲
- ・これまでの活動を継続・進化させるとともに、自治会やPTA、民生委員、さらには地域の事業所などにも協力を呼びかけ、地域全体で子供を育てる体制を強化します。地域の資源活用、地域イベントで子供スタッフ
- ・学校との関わりを持つ人を一人でも増やし、その人たちを核として地域を巻き込むことで、情報発信の質を高め、地域住民の関心を高める環境を作る。

第4次浜松市教育総合計画

計画期間 2025(令和7)年度～2034(令和16)年度

基本理念

描く夢や未来の実現

一人一人の自分らしさを認め、互いを尊重しあいながら、誰もが活躍できる環境を実現していく

主体性

物事を自分事としてとらえ、
目前の課題の解決や、描く未来の実現に向けて
粘り強く取り組む

多様性・包摂性

信頼・協働

それぞれの立場の人が、人や組織に信頼を置き、
協働したり、相互に作用したりして、
よりよい関係性を構築していく



目指すこどもの姿

自分らしさを大切にすることも
他者と協働し、主体的に行動できるこども
自己調整しながら、粘り強く取り組むこども

目指す教職員の姿

こどもの自分らしさを受け止める教職員
愛情と情熱、規範意識を持ち続ける教職員
専門性と指導力を磨き続ける教職員

方針Ⅰ

自分や浜松の未来を創る人づくり

- 政策 1 未来の創り手に求められる力の育成
- 1 確かな学力の育成
 - 2 豊かな心の育成
 - 3 健やかな心身の育成
 - 4 グローカル人材の育成
 - 5 情報活用能力の育成
 - 6 持続可能な社会・地域の形成に参画する態度の育成
 - 7 育ちや学びをつなぐ教育の推進
- 政策 2 多様なニーズに対応した学びや支援の充実
- 1 多様なニーズに対応したこども・保護者への支援
 - 2 特別な支援を必要とするこどもの学びや支援の充実
 - 3 不登校児童生徒の学びや支援の充実
 - 4 外国につながるこどもの学びや支援の充実
 - 5 多様な才能・個性を伸ばす機会の提供

方針Ⅱ

安全・安心で魅力ある環境づくり

- 政策 3 「はまつの先生」の魅力と資質能力の向上
- 1 志ある優れた教職員の確保
 - 2 専門性を有する質の高い教職員の育成
 - 3 多様な支援スタッフの配置
 - 4 教職員がいきいきと働ける環境の整備
- 政策 4 安全・安心に学ぶより良い教育環境の整備
- 1 新しい時代の学びを実現する学校施設等の整備
 - 2 学校安全の推進
 - 3 中山間地域等における教育環境の向上
 - 4 学びの機会確保に向けた支援
 - 5 いじめの問題への対応

方針Ⅲ

こどもの学びや育ちを支える連携・協働

- 政策 5 多様な人材・主体との連携・協働
- 1 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進
 - 2 魅力ある地域人材や団体等との連携
 - 3 家庭教育支援の推進
 - 4 放課後の居場所づくり

教えて!第4次浜松市教育総合計画



Q1 『第4次浜松市教育総合計画』ってなに?

- 教育基本法第17条第2項に基づき浜松市の教育に関する計画です。
- 今後10年間(令和年度～16年度)の教育政策の方向性や具体的な施策、目標などを定めています。
- 予測困難な時代においても、子どもやこどもの成長を支えるすべての人たちが、将来に向かって共に歩んでいくための道しるべとしての役割を果たすものです。



Q2 計画ではどのようなことをするの?



- 本計画では、3つの方針に基づいた5つの政策実現に向けて、25の施策を推進します。どの施策も様々なデータやデジタル技術の活用(教育DX)を意図して取組を進めます。



Q3 施策の成果はどうやってはかるの?



- 本計画は、計画(Plan)、実行(Do)、測定・評価(Check)、修正・改善(Action)のサイクルに基づいて、マネジメントを行います。
- 計画の評価は、施策ごとに指標(目標を達成できたかどうかを判断する基準)を設定し、その状況を分析します。その結果を活かして、具体的な取組を重点化、完了、修正・改善へと反映させていきます。

教育に関する相談はこちらへ

- **教育総合支援センター**
教育相談専用ダイヤル ☎ 053-457-2424
不登校、いじめ、友人関係、学習、進路、子育てなどの相談に応じています。
ポルトガル語、英語、スペイン語、フィリピン語でも相談できます。
(Atendemos também em português, espanhol, filipino e inglês.
Consultation in English, Spanish, Tagalog(Philippine) and Portuguese.)
- **いじめ子どもホットライン** ☎ 053-451-0022
いじめに関する専用ダイヤルです。24時間、年中無休で相談をお受けします。
- **24時間子供SOSダイヤル** ☎ 0120-0-78310
なやみいぶろ

浜松の教育について知りたい方はこちらへ

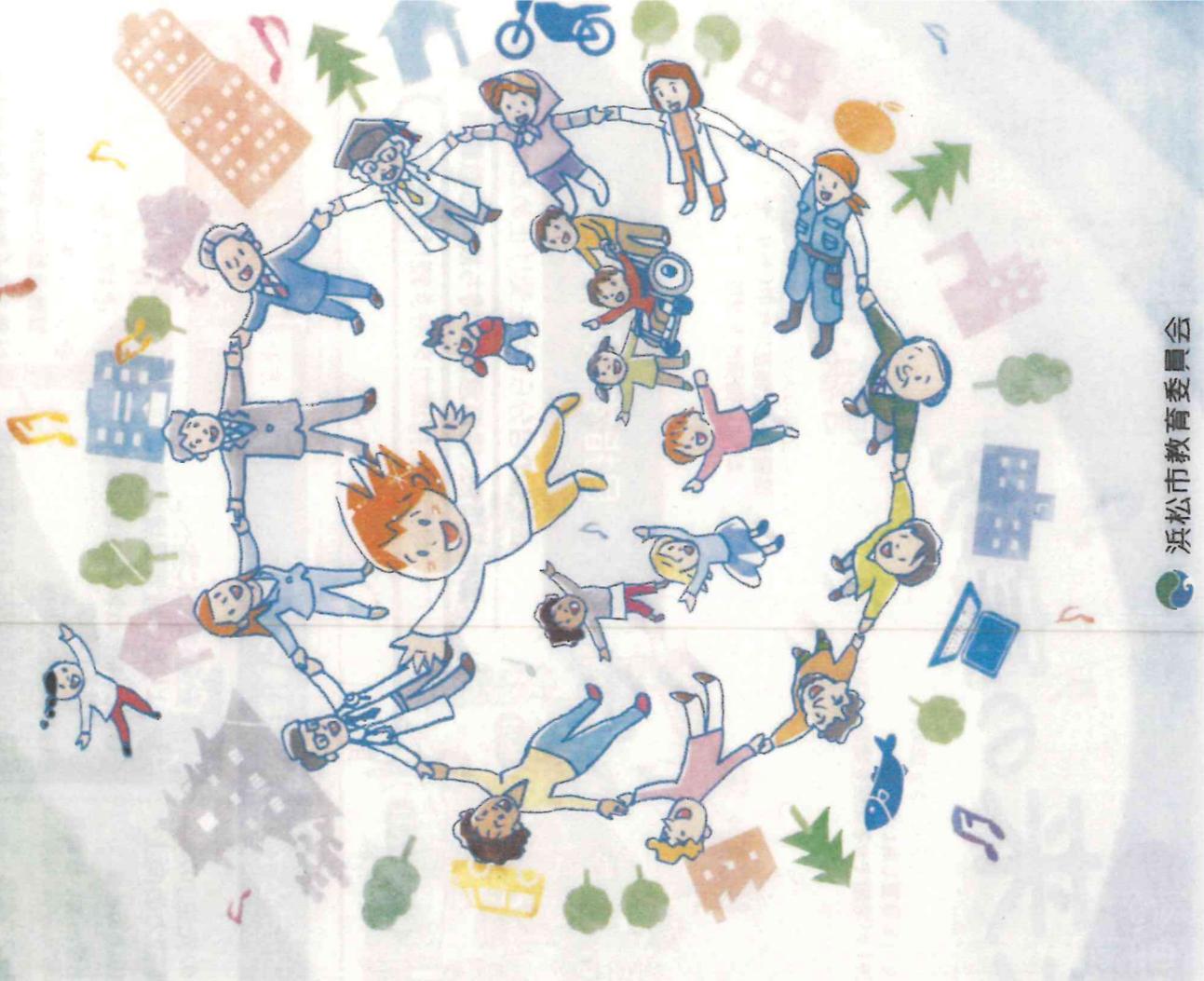


〒430-0929
浜松市中央区中央一丁目2番1号 イーステージ浜松オフィスク6F
TEL 053-457-2401 FAX 050-3730-8496
E-Mail k-kikaku@city.hamamatsu-sco.ed.jp



浜松市 教育 課

第4次 浜松市教育総合計画





I 学区の概要

明治6年(1873年)の創立以来、154年目を迎える歴史と伝統のある小学校である。昭和40年代に学校の人口が増加し始め、それに伴って児童数が増加したため、昭和52年に与進北小学校が分離新設された。現在の学区は、市野町の一部、上石田町、下石田町、天王町、原島町、流通元町の6町である。増加を続けてきた児童数は減少傾向にあるが、本年度も学級数が33学級であり、市内でも比較的大きな小学校の一つとなっている。

地域の産業は、かつては稲作を中心とする農業が盛んであったが、近年は郊外型の大型商業施設の出店が相次ぎ、都市化が急速に進んでいる。それに伴い自然体験の不足、交通量増大による児童の安全性の確保が課題となっている。

長上地区の歴史は古く、文化的価値のある旧家等が残っている。また「与進」の名が示すように昔から教育に関心が高く、地域も保護者も学校には大変協力的である。

II 現状と課題

1 国・市の動向

○令和の日本型学校教育

全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適の学びと協働的な学びの実現と定義

※学習指導要領では

これからの学校は、…教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識する…あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、…多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手と…

学習指導要領 総則編 前文より

○第4次浜松市教育総合計画～

基本理念 【描く夢や未来の実現】

3つのコンセプト:主体性 多様性・包摂性 信頼・協働

※浜松市の目指す子供の姿

自分らしさを大切にする子ども 他者と協働し、主体的に行動できる子ども

自己調整しながら、粘り強く取り組む子ども

(3つの方針)

- ・自分や浜松の未来を創(つ)くる人づくり
- ・安全・安心で魅力ある環境づくり
- ・こどもの学びや育ちを支える連携・協働

(5つの政策)

→未来の創り手に求められる力の育成

→はままつの先生の魅力と資質能力の向上 など成果指標も導入

オリジナルキャラクター



よしまつちゃん

2 児童の現状と課題（学校評価アンケート、全国学力学習状況調査）

（1）成果と課題

- 学校生活の満足感と安心感の高さ
- 協調性の育成と対人関係の肯定的空気感
- 学ぼうとする力(学ぶ意欲、感心・態度)の向上
- 安全指導と規則の順守
- 高学年における自己肯定感の低下
- 主体的な行動力の不足
- 学力の定着の課題
- 廊下歩行等一部の規範意識の課題

学校への満足感や人間関係は良好である。また前向きな姿勢で授業に取り組んでいる子ども多く見られ、学ぼうとする力が向上していることがわかる。一方で高学年の自己肯定感の低下や、指示を待たずに動く主体性の不足、学力の定着が課題として挙げられる。

確かな学力の育成に加え、児童の自己肯定感、およびさらなる規範意識の向上について改善策を推進していくことが必要であると考え。これらの実態を踏まえ、学校教育目標の実現の具現化を目指していく。

Ⅲ 学校教育目標・重点方針

1 校訓 学校が存続し、語り継がれる普遍的な言葉

ともに 進もう

ともに	自他を尊重する精神 人として欠かすことのできない重要な生き方(人格・人間性)
進もう	行動指針(ポジティブ志向・向上心) 前(明日・未来)を向いて、向上していこう

2 学校教育目標

志をもち 共にやりぬく子

令和8年度も学校教育目標を「志をもち 共にやりぬく子」とし、「与進ファミリーでやらまいか」を合言葉に、夢や希望をもち、仲間(自分を取り巻く人)とともに夢実現に向けて粘り強く取り組む子の育成を目指す。

<合言葉>

与進ファミリーでやらまいか

「与進ファミリー」とは児童だけでなく児童を取り巻く人(教職員、保護者、地域住民等)を意味している。児童には「与進ファミリー」の意味が浸透し、仲間を大切にしようとする優しい心が育まれている。今年度は、合言葉を「与進ファミリーでやらまいか」とし、仲間とともに目標達成に向けてチャレンジし、自らを磨こうとする心を育てたい。また、児童、保護者、地域などで合言葉を共有し、連携・協働して子供たちを育てていく。

3 学校経営の柱

「わたしは一人の大切な人間である」、「自分にはよいところがある」という肯定的な思いが頑張りを生み、優しさを発揮させる原動力となる。自分を信じる心が「学びに向かう力」「人とつながる力」を生み出していく。そこで学校経営基盤を「わたしは一人の大切な人間であると実感できる学校」(自己肯定感・自己有用感)とし、キャリア教育の視点を意識した教育活動を推進し、「自分を磨く(自分を見つめる力・挑戦し、解決する力)」「社会性を育む(人と関わる力・未来へつなげる力)」を両輪で育むことを通して、学校教育目標の実現を図る。

(1)すべての子供の可能性を引き出す学びの実現

「自分を磨く(自分を見つめる力・挑戦し、解決する力)」

① 確かな学力の育成

○望ましい学習習慣の定着

・温かな聴き方、やさしい話し方の継続実践

○基礎的な知識・技能の定着

・家庭学習の充実(タブレットの持ち帰りを含む)

・学習の基礎・基本が定着する指導の工夫(個に応じた指導・支援)

○主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の推進

・教科別研修、与進小学びのプラン(教師の授業力の向上)による「わかる授業」

・教科担任制(4～6年)

・ICT 機器を効果的に活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実

② 発達支援教育を根幹に据えた教育

○子供理解に努め、個に寄り添った指導、支援の実現

○スタートカリキュラムに基づく1年生指導の充実

○子供の意見を生かした教育活動の実現(児童会活動等)

③ 多様なニーズに対応した学びや支援の充実

○一人一人の教育的ニーズに配慮した多様な指導や学びの場の提供

(発達支援学級、発達支援教室、外国人指導教室 校内学びの教室等)

○不安を抱える子供や保護者の心の安定を図るための専門家(SC、SSW 等)と連携した教育相談体制の充実

④ 目標に向かって粘り強く努力し、達成感を味わわせる教育活動の充実

(2)自分らしさが発揮できる学校

「社会性を育む(人と関わる力・未来へつなげる力)」

① 友達のよさや違いを認め合い、支え合う温かな学級

○気持ちのよい挨拶、ふわふわ言葉(さん、くんも含む)で友達に接する態度の育成

○失敗や間違いを認め合う集団作り

○学年や学級の目標を共有し、達成に向けて努力するための教育活動の充実

○思いやりの心を育む道徳教育の充実

○友達や自分の頑張りや努力を認め合う活動の充実

・挑戦する子、頑張った子への賞揚等

② 規範意識の育成

③ いじめ等問題行動の未然防止、早期発見、組織的な対応

○初動を大切にし、組織的に対応するための校内体制(報・連・相)の構築

○深い児童理解に基づく丁寧な対応

○保護者との信頼関係の構築

- ・面談、教育相談等の充実
- ・ブログ、さくら連絡網等による積極的な情報発信

4 学校教育目標実現のための目標（目指す子供像）

※知、徳、体をバランスよく育み、子供たちの生きる力を育てる。

目指す子供像	指導の重点と具体的な手立て（・）
知（確かな学力） 自ら学ぶ子	① 基礎基本の定着 ・既習事項の振り返りの徹底 ・「温かい聴き方・優しい話し方」の継続指導 ・家庭学習の充実 ② 自己調整力を伸ばす授業づくり ・単元を貫くゴール設定 ③ ICTの効果的な活用 ・情報モラル教育
徳（豊かな人間性） 認め合い、自律に向かう子	① 自分自身を知り、他者を理解する機会の確保 ・心の日（家庭との連携） ・「命を大切に作る週間」での全校道徳（家庭との連携） ・道徳掲示コーナーの充実 ・誕生日の放送とカレンダー掲示 ・生活賞（あいさつ・廊下・ふわふわ言葉）と善行賞での賞揚 ・キャリアパスポートの有効活用 ② 規範意識の向上と判断力の向上 ・生活のきまりの確認と教室掲示 ・学年・学級経営の充実 ・1年生スタートカリキュラムの実施と定着 ③ 生活のめあての徹底とふわふわ言葉の定着 ・生活のめあてへの意識付けの向上 ・ふわふわ言葉表の積極的活用
体（健康や体力） 目標に向かってやりぬく子	① 目標を立て、それに向かって取り組む態度の育成 ・学級目標、学期のめあて、なわとびカード、マラソンカードに取り組む ② 所属感、達成感を味わわせる行事の充実 ・各行事で、児童自身が役割を選択する機会を設ける ・修学旅行や臨海学校、校外学習、運動会や音楽発表会などでの役割 ・キャリアパスポートの活用 ③ 自ら決定し、粘り強く取り組む学級づくり ・自己決定の場を設けた学級活動の実施 ・体力アップコンテスト、係活動、学級イベント、話し合い活動など ④ 異学年交流



Ⅳ 地域とともにある学校

学校経営の基本方針等を保護者、地域と共有し、連携・協働してその実現を目指す「社会に開かれた教育課程」の実現

地域	<子供の育ちを支える地域> ○学校運営協議会の熟議による地域住民・保護者との連携・協働の推進 ○与進の子応援団との連携による豊かな学びの実現
保護者	<子供の心の基盤となる家庭> ○基本的な生活習慣の定着 ○家庭学習の見守り

Ⅴ 目指す教師像「誰からも信頼される教職員」

- 教職員としての高い倫理観とをもち、誰からも信頼される教職員であり続けるよう教員育成指標を意識した研修を行う。
- 子供たちの生きる力を育むために子供と向き合う時間を確保する、教職員が心身ともに健康で教育活動に取り組むための働き方改革を推進する。



チームづくり疑問共有



「指導力の向上だけでなく、先生同士の日常的なコミュニケーションも活発になった」とPLCの手応えを語る教員

＝2025年12月中旬、浜松市立与進小

PLC「Professional Learning Community」の略。学び合いチームの協働を通じて教員間の価値共有や相互理解、それぞれの指導法の客観的検証などを繰り返すことで授業力を高める取り組み。県教委によると、2024年度に精神疾患により30日以上の特休取得や休職をした教職員は363人と過去最多で、若手の増加が目立った。職場内の不調和や「支援を受けることができなかった」との声があり、多忙感の中で自己解決を求められる状況に苦しみ、日常的な相談機会の需要が高まっていることがうかがえる。

教科担任制を採る浜松市立与進小(太田眞子校長)は本年度、校内に教科ごと

変わる教育

「井戸端会議」価値見直し

教員間のコミュニケーション不足が課題になる中、教員がチームをつくり上げて学び合う「専門職の学習共同体(PLC)」が注目を集めている。子どもへの関心を育むつづける問いかけや日々の疑問を共有し、連携して解決を目指す取り組み。かつて職員室で頻りに繰り返された「先生たちの井戸端会議」は授業の質を高めるだけでなく、課題を抱え込まない体制づくりにもその価値が見直されている。

教員の原点回帰

第1章 次代の学び ②

4年の算数は、公式の知識を応用してしるなどいびつな「複合図形」の面積を考える授業がある。児童

の教員研修班を新設した。算数や国語など5人5人ずつの計1班。同じ教科でも「個別指導」や「先生に向かい続ける課題設定」など、班ごとに年間テーマを設けて教材研究や指導法を話し合っている。職員室でもやりとりが活発になる効果もみられ「学力や生活指導も言いつて児童に還元できている手応えがある」と研修主任の大森一樹教諭(35)は話す。

は当初、図形内に線を引いて長方形や正方形になり、それぞれの面積を算出して全体の面積を出した。複合図形に線を引いて大きな正方形にし、不要部の面積を引く手法もあがったが、児童のやり方を聞いてみるに、性質を伝えたい」と考えた。班の先輩に相談しながら自分と太田校長の陣地取りゲームに見立て、引き算す

る方が多い「口の複合図形」を考案し、「1つの角が切られた」と切りかけた。児童が「早く結果を知りたい」と聞き、汗を流す様子を探らず、狙いはまだ、児童は図形に「口の」を添えて、自分も納得して体感できた。一わらわらと体感している姿を見て、本意にうれしかったと話す。

「先生たちの、互いに話しあっていたらいいので、話しあっている雰囲気がある」。元来、教員で、PLCの働きとして同校の取り組みに助言する聖隷クリスティア大学大学院教育学部の竹本右樹教授は教員の現状を語る。「毎週小の活動は太田校長を中心に始まったが、教科別研修などは教員の提案で主体的に展開した。先生のPLCが動き出した」と評価する。

2026年
(令和8年)
1月10日
土曜日



〒422-8033
静岡市駿河区数呂3-1-1
静岡新聞社
電話0570-050-217
(静岡新聞SPSお客様センター)
©静岡新聞社2026

囲碁・将棋……………7
読者のひろば・運勢……………7
小説……………7
T.Vラジオ新聞 週間テレビ番組表 新聞別冊

スポーツ……………10
社説……………10
中部電の原差不正……………10



ご利用はこちら

与進小 C S だより

令和7年度 第4号

令和8年1月27日

与進小学校運営協議会

2年生の図工でカッターの支援を行いました！



11月25日、26日、12月1日、2日の4日間に渡って、総勢7名のボランティアさんが来て、2年生の図画工作でカッターの学習支援を行っていただきました。この授業支援は当初計画に無い初めての試みでしたが、急遽応援団の方に募集したにもかかわらず、多くの方が参加していただきました。

2年生にとっては、初めてのカッター使用です。カッターはけがをすることがある道具のため、先生から、まずは「カッターの使い方の約束」を聞き、緊張感をもって授業が進みました。しかし、いざ作業が始まるとみんな夢中になってしまい、約束を忘れてしまう子もチラホラ。そんな時ボランティアさんが大活躍してくださり、無事授業を終えることができました。先生からも「支援していただき本当に助かりました。」とお礼の言葉をいただき、ボランティアさんからも「先生一人で見るのは大変な授業なので、今後もボランティアをつけた方がいいと思います。」といった感想をいただきました。今後も引き続き学習支援が必要な授業だと実感しました。参加して下さったボランティアの皆さん、ありがとうございました！



1年生の焼き芋パーティーを支援しました！

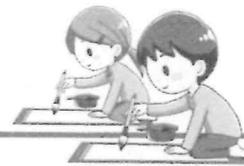


11月26日晴天の中、1年生が自分たちで育てた「さつまいも」で焼き芋パーティーを行い、ボランティアさんが7名参加していただきました。

今回参加して下さったボランティアさんは、各町内の自治会長さんたちです。ある自治会長さんから「学校はこんな支援を必要としてるんだね。これからは町内の人たちにも声を掛けて、お手伝いに参加するよ！」という大変うれしい感想をいただきました。支援活動の輪が更に広がっていくといいですね。



3年生書き初めの授業を支援しました！



12月4日と18日に3年生の書き初めの授業が行われ、両日とも、地域住民15名という大勢の方がボランティアに参加してくださいました。去年までは各教室で書き初めを行っていましたが、今年は初の試みとして3年生全員が体育館に集まり、一斉に書き初めを行いました。子供たちは大きな書き初め用紙に悪戦苦闘していましたが、ボランティアさんの支援を受けながら「花がさく」という文字を書きました。

去年も参加して下さった方からは「今年は体育館だからみんなのびのび書いているね。教室より体育館の方がいいね。ただ墨が床についてしまうから対策しないとね。」と感想をいただきました。また別の方からは「こんなにたくさんの方が参加していて、ボランティア活動の支援の輪が広がっていますね。」とうれしいお言葉もいただきました。参加して下さった皆さん、ありがとうございました！



「第3回学校運営協議会」が開催されました！

12月11日、第3回学校運営協議会が開催されました。今回は学校評価や学力調査についての報告が行われた後、来年度の学校経営に生かすため、与進小の現状を、SWOT分析を用いて、運営協議会メンバーと学校職員が共同でグループ協議を行いました。これにより、与進小学校の内部環境・外部環境を把握し、普段意識する機会が少ない外部環境の課題から、問題解決を図り、改善策を打ち出していきました。

2グループに分かれ活発な意見交換が行われた後、各グループの代表者が発表を行いました。今後の学校運営に役立ちそうな様々な意見や課題などが打ち出されています。詳細はHPの第3回会議録に掲載されていますので、是非ご覧ください。

SWOT分析とは

内部環境と外部環境を



「強み Strength」・「弱み Weakness」
「機会 Opportunity」・「脅威 Threat」の
4つの要素で分析し、効率的な戦略を立案するためのフレームワークです。



<分析表>



<発表の様子>



<グループ別協議の様子>



<Aグループ分析表>



<Bグループ分析表>